

【サマーセミナー 講師紹介】

8/21 (土)

13:40- 講演1「公衆衛生医師のキャリアパス」

永井仁美 (大阪府茨木保健所 所長)

1994年自治医科大学卒業後、初期臨床研修の後、徳島県のへき地診療所勤務。2000年大阪府立羽曳野病院結核内科勤務後、翌年より保健所や本庁で保健医療行政に従事。2009年より保健所長、中核市保健所への派遣、本庁勤務など経て2021年より茨木保健所勤務。全国保健所長会学術常務理事。

14:30- 講演2「社会医学系専門医制度」

宮園将哉 (大阪府健康医療部保健医療室 副理事)

1996年自治医科大学医学部卒業。大阪府立病院(現・大阪急性期・総合医療センター)で臨床研修と救急医療に従事した後、2000年から府庁や保健所において保健医療行政に従事。2010年からは保健所長として府内の保健所に勤務した後、2020年からは大阪府庁において医師偏在対策や政策医療分野の医師確保対策、公衆衛生分野における行政医師確保対策などの業務を担当している。

15:30- 講演3「ナッジ：公衆衛生医師に求められる行動経済学的視点」

大竹文雄 (大阪大学感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門 行動経済学ユニット 特任教授 大阪大学大学院経済学研究科(兼任))

専門は労働経済学・行動経済学。格差問題の実態と原因を実証した著書『日本の不平等—格差社会の幻想と未来』で日本学士院賞、サントリー学芸賞、日経・経済図書文化賞などを受賞。著書に『競争と公平感』『競争社会の歩き方』『経済学は役に立ちますか?』『行動経済学の使い方』『医療現場の行動経済学：すれ違う医者と患者』など多数。

協力：PolicyGarage (行動経済学とデザイン思考を駆使して、地方自治体から政策を変えることを目指す特定非営利活動法人)

8/22 (日)

9:40- 講演4「DHEAT：災害時における公衆衛生医師の役割」

藤田利枝 (長崎県県央保健所 所長)

1996年長崎大学卒。長崎大学第二外科(現・移植消化器外科)及び関連病院で勤務の後、2005年に長崎県入庁。県内の保健所と県庁での経験を経て2015年から保健所長として勤務。2015年の熊本地震への支援を始めとして、2017年からはDHEATリーダーとして毎年被災地支援に従事。

10:40- 講演5 「公衆衛生のやりがいと医師としてのアイデンティティ」

宇田 英典（地域医療研究所ヘルスプロモーション研究センター シニアアドバイザー）

1978年、自治医科大学医学部卒業。鹿児島大学病院などで臨床研修後、離島医療に従事。国立公衆衛生院（現・国立保健医療科学院）での研修を経て、保健所や県庁などに勤務。2014年、全国保健所長会会長就任。社会医学系専門医協会前理事長。現在、公益社団法人地域医療振興協会で執行役員を務めている。